

2022 年度 事業報告

法人の名称：

特定非営利活動法人 横浜依存症回復擁護ネットワーク

1. 事業の成果

健康な社会づくりに寄与することを目指し、依存症者、家族、一般市民に対して、回復の擁護と回復の支援を提供する活動を展開することができた

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

1) 依存症者、家族に対する面談、相談

a. オールリカバリーミーティング（対面形式）

①内容：

依存症・回復者本人、家族、支援者による分かち合いを行った

②日時：毎週水曜 13:30～15:00

③場所：神奈川県民サポートセンター

④従事者：1人

⑤受益者：横浜市および周辺地域の依存症本人、家族、支援者。各回約 10人

⑥事業費：0円

b. オールリカバリーミーティング（オンライン形式）

①内容：

オンラインミーティングツール zoom を活用し、依存症・回復者本人、家族、支援者による分かち合いを行った。内容に加え、顔を出さなくても参加できることなど、対面形式よりも参加へのハードルが低いこともあり、参加者の増加傾向が続いた。

②日時：毎月第1・3月曜日 午後8時～9時

③場所：オンライン

④従事者：2人

⑤受益者：横浜市を中心に全国各地の依存症本人、家族、支援者。各回約 30人。

⑥事業費：0円

c. 当事者・家族等に対する面談・相談

①内容：

依存症・回復者本人や家族が参加するアディクション家族教室・依存症相談・育児学級等において、依存症・回復者本人や家族に対する相談を実施した。

②日時および場所

毎月1回（横浜市内3区=旭区・保土ヶ谷区・瀬谷区=合同）

毎月1回（東京都大田区 糞谷・羽田地域庁舎）

毎月1回（横須賀市、久里浜医療センター）

③従事者：1人

④受益者：

当該地域内に居住する依存症・回復者本人、家族等。

横浜市内3区=旭区・保土ヶ谷区・瀬谷区：各回4～12人

東京都大田区 糞谷・羽田地域庁舎：各回8～10人

久里浜医療センターについては、入院中・通院中の依存症・回復者本人、家族等。各回6～10人

⑤事業費：0円

2) 講習会・セミナー開催に関する事業

a. リカバリーコーチ育成研修に向けた調査

①内容：

アメリカ・コネチカット州で依存症からの回復を進めるCCARが実施しているリカバリーコーチ育成事業をモデルに、同様の事業を始めるべく、前年度に引き続いて関係文献等の翻訳を進めたほか、実施に向けた体制や資金確保の方法などについて調査・研究を進めた。

②日時：通年

③場所：事務所等

④従事者：2人

⑤受益者：調査段階のため、なし

⑥事業費：106,000円（翻訳ライセンス料）

b. 依存症・回復者本人、家族等に対する講習

①内容：

国立病院機構久里浜医療センターからの依頼により、職員が、依存症や回復に関する講習（プレゼンテーション）を行った。

②日時：概ね2カ月に1回

③場所：久里浜医療センター、または事務所よりオンラインで実施

④従事者：1人。加えて各回とも利用者1～2人。

⑤受益者：久里浜医療センターに入院中または通院中の依存症・回復者本人、家族等。各回50～60人

⑥事業費：0円

3) 障害者総合支援法に基づく計画相談、自立生活援助事業

①内容：

社会福祉法人幼年保護会からの依頼により、職員が、障害者総合支援法に

基づく計画相談に対応した。

②日時 : 週 1 回

③場所 : 受益者の自宅や通所先

④従事者 : 1 人

⑤受益者 : 依存症・回復者本人。各日 2~4 人

⑥事業費 : 0 円

4) 地域活動支援センターの運営

①内容 :

横浜市と連携し、地域活動支援センター「横浜リカバリーコミュニティー (YRC)」を運営した。依存症で苦しんでいる仲間たちへの回復支援として、ミーティング、相談、創作的・生産活動 (町内の清掃、園芸、創作活動、発送業務) などを行った。

②日時 : 土曜・祝日、年末年始以外、年間 290 日。午前 9 時~午後 5 時

③場所 : 事務所

④従事者 : 職員 3 人。加えてリカバリーサポーター (ボランティア) 約 25 人。

⑤受益者 : 横浜市内のアルコール依存症等各種依存症者 約 30 人

⑥事業費 : 20,078,720 円

⑦補足 : 職員が虐待防止研修をオンラインで受講した。

5) 地域の団体、施設との交流促進

①内容 :

横浜市こころの健康相談センターや特定非営利活動法人横浜市精神障害者地域生活支援連合会 (横浜市精連)、同アディクション部会、その他の依存症関連の団体が主催する集い、研修会へ参加し、交流を深めるとともに、依存症・回復に関する知識を学び、実践的スキルの向上を図った

②日時 : 随時

③場所 : 横浜市内等、オンライン

④従事者 : 参加者は職員 4 人、他に理事も随時参加

⑤受益者 : 直接受益者は参加者。間接受益者は、YRC 利用者約 30 人

6) 広報事業

a. 広報紙発行

①内容 :

Y-ARAN および YRC の取り組みを伝える「広報紙 Y-ARAN」、YRC のプログラム風景を写真中心で伝える「横浜リカバリーコミュニティー」を発行した。2023 年 1 月からは 2 種の広報誌を統合し、印刷を外注化して全面カラーにした。誌面刷新後、より多くの人に手にとってもらえるようになり、発行部数も増えた。

②日時：

広報誌 Y-ARAN：2022年6月、9月、2023年1月、3月

横浜リカバリーコミュニティー：2022年6月

※2023年1月より両誌統合

③場所：横浜市内等に配布

④従事者：3人

⑤受益者：会員、当事者、家族、支援者および病院、福祉施設、行政機関等、約800部（2023年3月）

⑥事業費：31,872円（紙代、印刷代、発送代）

※別途、地域活動支援センターの事業費に計上している金額あり

b.ウェブサイトを通じた情報発信

①内容：

Y-ARAN ウェブサイトを通じて、Y-ARAN の活動や関連する取り組みなどの情報を公開・発信した。YRC のプログラム内容や、リカバリーパレードに関する情報などを更新した

②日時：通年。更新は随時

③場所：ウェブサイト（オンライン）。更新作業は事務所および従事者の自宅等で行った。

④従事者：1人

⑤受益者：当事者・回復者、家族、支援者、一般市民

⑥事業費：0円（別途、管理費に計上）

c.リカバリーパレード「回復の祭典」in 神奈川に向けた取り組み

①内容：

回復の顔と声を社会に向けて発信する世界的な運動であり、横浜でも5回実施されているリカバリーパレード「回復の祭典」の実施に向け、実行委員会の事務局を担い、準備、当日の運営に関与した。従来のリカパレは横浜の枠で実施されてきたが、神奈川の枠に拡大した。

準備期間や体制に加え、当事者や回復者、家族、支援者の声をしっかり聞く形でよいのではとの意見があり、パレードは実施せず、公園内でのスピーチを主体とした。琉球太鼓（千葉ダルク・館山ダルク）の披露や、リカパレ東京コーラス隊のパフォーマンス、坂本博之さんのスパーリングセッションも行われた。

コロナ禍で2020年は中止、2021年は東京と合同でのオンライン形式での開催で、対面形式は3年ぶり。パレードのない形式ではあったが、実行委員、参加者とも概ね好評だった。

リカパレの取り組みをさらに強化していくため、従来、実行委員会を恒常的な組織とすることになり、Y-ARAN がその事務局を担うこととなった。

②日時：11月19日

- ③場所：横浜市中区、象の鼻パーク
- ④従事者：4人
- ⑤受益者：当事者・回復者、家族、支援者、一般市民 多数（参加・観覧者は最大時200人）
- ⑥事業費：0円

d.他地区のリカバリーパレードへの参加

- ①内容：

横浜・神奈川以外でリカパレを通じて回復への理解を促進するとともに、各地の当事者・支援者・関連団体との交流を深めるため、大阪で開催されたリカバリーパレードに、理事長の城間が参加した。
- ②日時および場所：

11月13日 大阪市内
- ④従事者：1人
- ⑤受益者：当事者・回復者、家族、支援者、一般市民 多数
- ⑥事業費：0円

e.「回復の顔と声・日本委員会」の活動への関与

- ①内容：

依存症と回復に関する全国的なアドボカシー活動などを目的に設立された同委員会の活動に連帯し、意見交換などを行った。同委員会は、リカバリー・パレード提唱者で回復擁護運動の実践者、ウィリアム・L・ホワイトさんの著作を翻訳し、『依存症から回復のコミュニティへー回復者と家族・友人たちによるアドボカシー活動』（社会評論社）として出版した。城間勇理事長は同委員会の仲間たちとともに監訳を担当した。
- ②日時：随時
- ③場所：事務所等
- ④従事者：1人
- ⑤受益者：当事者・回復者、家族、支援者、一般市民 多数
- ⑥事業費：0円

f.Y-ARAN ラジオ（ポッドキャスト）放送開始に向けた準備

- ①内容：

依存症・回復者本人や家族、支援者の回復のメッセージを伝えることを基本とする簡易的なラジオ（音声）番組「リカバリーラジオ」の放送開始に向け、調査、必要機材の購入、収録を行った。2022年度中に放送を始める計画だったが、編集作業が十分に進められず、放送開始には至らなかった。城間理事長、藤原理事、田中理事らのメッセージの収録を行い、ナレーションなども収録した。活動にはリカバリーサポーターやYRCのメンバー（利用者）も加わった。

- ②日時：約 5 回
- ③場所：事務所等
- ④従事者：7 人（うち、リカバリーサポーター・YRC 利用者 3 人）
- ⑤受益者：なし。放送開始後は、当事者・回復者、家族、支援者、一般市民
- ⑥事業費：35,605 円（録音機材）

3. その他

総会（6 月 18 日）、理事会（計 7 回）を開催し、ガバナンス強化のため、会計事務所、社会保険事務所との契約を継続した。また、事務局長（非常勤）の退任を受け、事務局員（非常勤）を配置した。YRC の利用者のうち、居所を求める数名は、共同生活の拠点となる「滝頭ハウス」「岡村ハウス」を利用した。